

## 新島の火山活動解説資料（平成 30 年 7 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気など表面現象の状況（図 2）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約 4 km）による観測では、丹後山山頂部に噴気は認められません。

#### ・ 地震や微動の発生状況（図 3－①②、図 4）

新島付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。  
火山性微動は観測されていません。

#### ・ 地殻変動の状況（図 1、図 3－③）

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

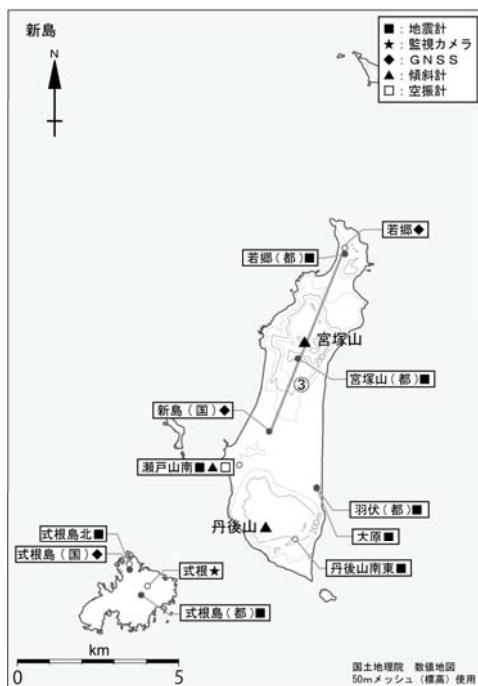


図 1 新島 観測点配置図

GNSS 基線は図 3 の③に対応しています。



図 2 新島 丹後山山頂部の状況  
（7 月 10 日、式根監視カメラによる）

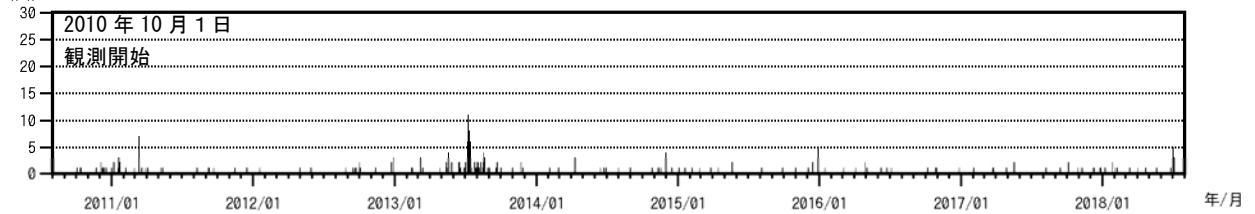
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 30 年 8 月分）は平成 30 年 9 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

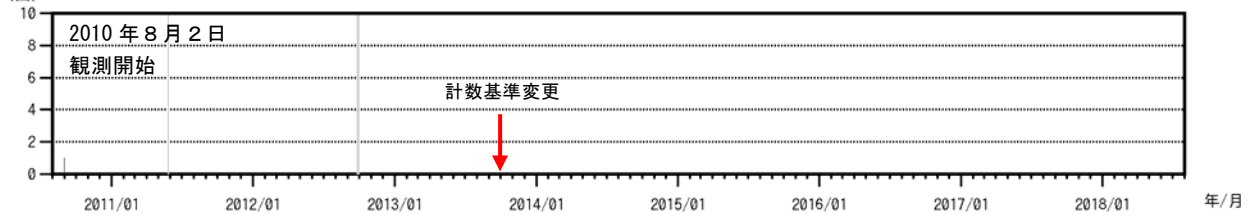
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

【計数基準の変遷】	
A型地震	2010年10月1日(観測開始)～ 瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内
B型地震	
初期	2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南振幅0.8 $\mu$ m/s以上
変更	2013年10月1日～ 瀬戸山南振幅4.0 $\mu$ m/s以上

① 日別A型地震回数



② 日別B型地震回数



③ GNSS観測 若郷-新島(国) (基線長 6173m)

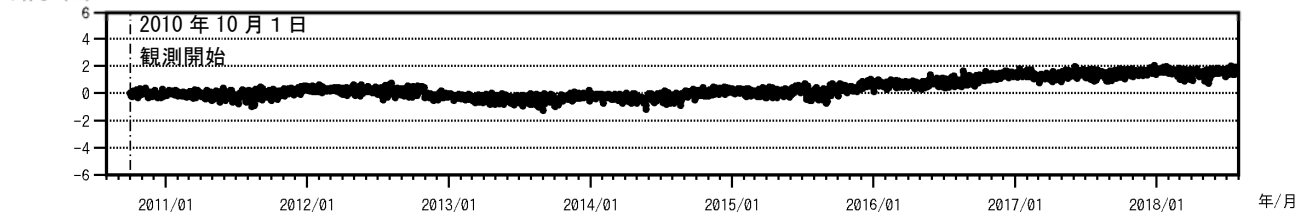


図3 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2018年7月31日)

- ①②グラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示します。
- ③(国): 国土地理院、図1のGNSS基線③に対応しています。
- グラフの空白部分は欠測期間を示しています。

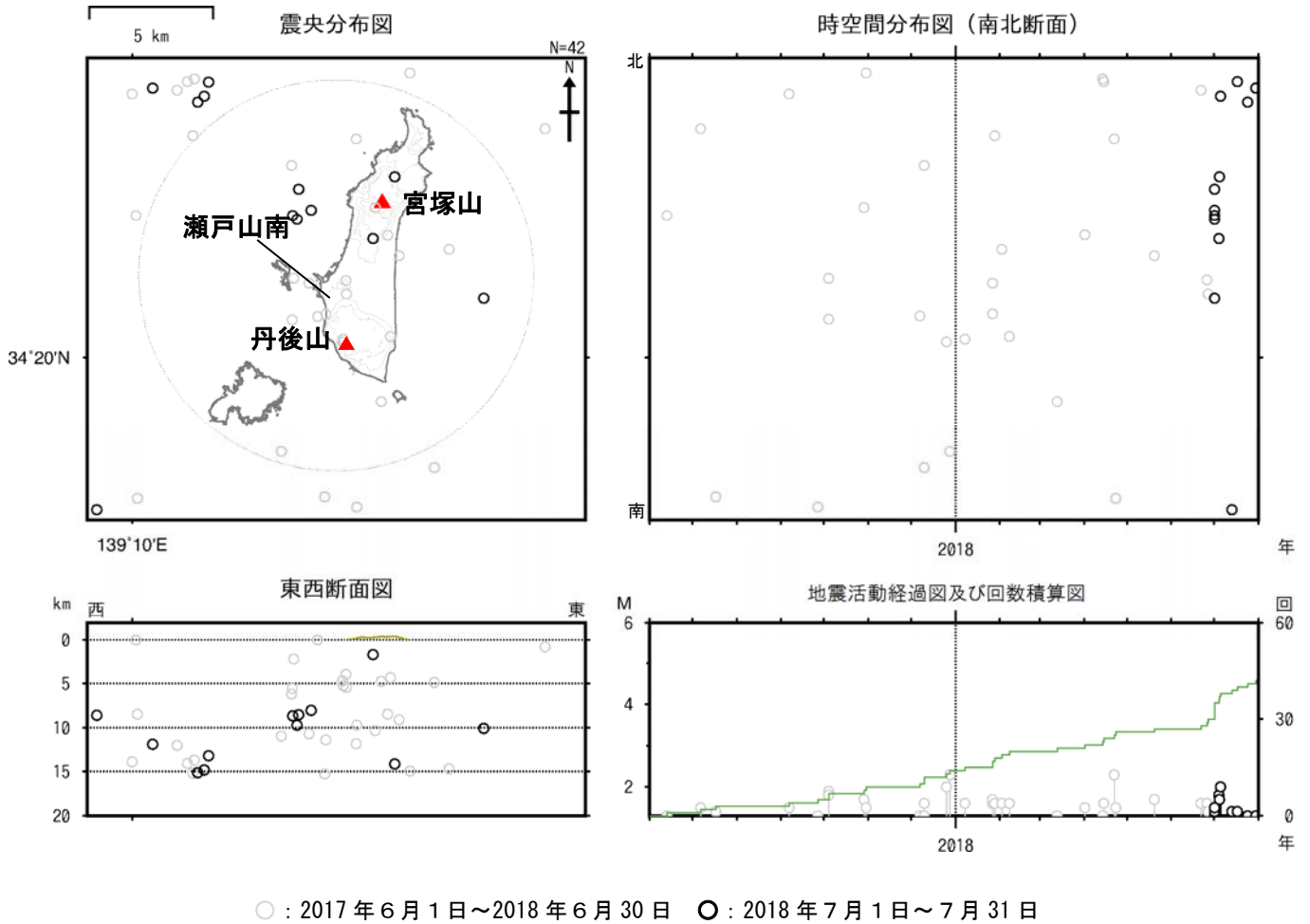


図 4 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2017 年 6 月 1 日～2018 年 7 月 31 日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3 以上の地震を示しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

計数対象（瀬戸山南から半径約 8 km、深さ約 20km 以内）以外の地震が含まれるため、図 3 - ①の日別 A 型地震回数とは異なります。

震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径 8 km、深さ 20km 以内）の範囲を示しています。